

賃金を減らさないために
2022. 12. 6

労働者は、賃金をもらって、何かを買う。何かを買っていると、それが別の労働者の賃金の元になる。だが、賃金の元で、賃金そのものではない。利益をだすからである。その利益が株主に配当される。ようするに、初めは、ダブリュ（賃金）であるが、次は、ダブリュ ヒク ピーとなり、労働者の賃金が少しずつ減っていくということである。

それを防ぐには、ピーの部分労働者がもらえば良いだろう。つまり、勤めている企業の株を持てば良いということだ（ダブリュ ヒク ピー タス ピー）。それなら配当が得られ、大きく見た給料は下がらない。それは、勤めている企業の株式に限らなくても良いかもしれない。これを株式主義といっておく。合衆国ではわりとこういう考え方がとられているかもしれない。

もうひとつ、今の日本のやり方がある。これは、ジーアイ（政府の公共投資）を足すやり方である（ダブリュ ヒク ピー タス ジーアイ）。政府が給料が減る分を穴埋めするというやり方だ。これでも良いかもしれないが、財政が難しくなる。もしくは、インフレになる。国債発行の分だけ円が新しく刷られるからだ。だから、個人が、株式を持ったほうが良いと思う。いや、株式でなくとも構わない。

エイゾウ
eizo@eizo09.com